

日時 : 2012年12月26日 水曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

□ M2 修士発表

□ 修士発表

■加藤 / 木造住宅密集地域における公私の曖昧さを保持する都市修繕

- > 分析をしないと何をしているのかわからない。違う都市と比べる必要があるのか、他都市と比べる事で敷地の良さが分かるのでは。そこから提案をする。公私の曖昧さを数値で置き換える必要がある。幅員が公私の曖昧さとう関係するのか。何を保持するのかを形や数字を出す事で提案する。

■細金 / 同時存在空間

- ・ 柏崎はかつて宿場町だった。また、駅周辺は工場となっている。
- > どこが他の町と違うのか。町になにが必要で必要がないのか。町の中で何と何が同時存在しているのか。まずは柏崎の分析をすること。住宅と公共建築のスケール感は違うので、このスケールでの同時存在のレファレンスを探す。

■田口 / 隙のある建築

- > なぜ新宿、渋谷に教会が多いのか。それが分からなければ教会は提案できない。役所がつくる教会、結婚式場も考える。

日時 : 2012年11月21日 水曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子 (記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

M2,M1 コンペ打ち合わせ

同志社コンペ打ち合わせ

- ・ アプローチで距離をとる。引きがない場所にどうアプローチをとるのか。
- ・ どのくらい開く事が大切になっているのか。なぜ礼拝場の形式を変えなければならないのか。様々な形式をとれる。
- ・ 光を走らせるために天井を低くする。
- ・ コンペについて、要項への回答はなにか。
- ・ 大学チャペルは入りやすい、集まりやすい、用途も様々な空間。何がいいのか知らないのか。
- ・ 事例から調べ、現状でどんなアプローチができるのかを考える。
- ・ 人数による形の変化、構造を考える必要がある。同じ規模のものを探し、キャンパス計画を考える。

日時 : 2012年11月14日 水曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

M2,M1 コンペ打ち合わせ

同志社コンペ打ち合わせ

- ・ まずは方向出し。来週までに 1/200 図面、模型、CG を作る。
- ・ 学生センターとチャペル/教会の違いは何か。布教活動をしているかしてないか、チャペルは付属のもの。
- ・ 大学のチャペルとは何か。それは自由に誰もが使えるという事。
- ・ 建物は平屋で、上から光を入れるのではなく横から光を入れる。壁の教会をどうなくすかを考える。壁が厚い事、光を運ぶ事。長い距離光を走らせるためにはどうするか。
- ・ レファレンスを探す。どのような教会があり、キャンパス礼拝堂はどのようなものがあるのか。教会の壁や床など素材を調べる。

只見町コンペ打ち合わせ

- ・ 小さい町での役場とは何か。人が少ない事で何ができるのかを考える。見える透明な役場。人と人が触れ合う場所。
- ・ 交流ができる場所は何で、何が必要なのか。図書館、レストランなど、わざわざ人が来る必要があること、集まれる場所など。
- ・ みんなが作業できる、雪でも作業できる場所など、働くのに便利な場所であるべき。
- ・ 雪を利用した設備、耐雪がベスト。
- ・ 既存との関係を考える。

日時 : 2012年11月14日 水曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

M2,M1 コンペ打ち合わせ

同志社コンペ打ち合わせ

- ・ まずは方向出し。来週までに 1/200 図面、模型、CG を作る。
- ・ 学生センターとチャペル/教会の違いは何か。布教活動をしているかしてないか、チャペルは付属のもの。
- ・ 大学のチャペルとは何か。それは自由に誰もが使えるという事。
- ・ 建物は平屋で、上から光を入れるのではなく横から光を入れる。壁の教会をどうなくすかを考える。壁が厚い事、光を運ぶ事。長い距離光を走らせるためにはどうするか。
- ・ レファレンスを探す。どのような教会があり、キャンパス礼拝堂はどのようなものがあるのか。教会の壁や床など素材を調べる。

只見町コンペ打ち合わせ

- ・ 小さい町での役場とは何か。人が少ない事で何ができるのかを考える。見える透明な役場。人と人が触れ合う場所。
- ・ 交流ができる場所は何で、何が必要なのか。図書館、レストランなど、わざわざ人が来る必要があること、集まれる場所など。
- ・ みんなが作業できる、雪でも作業できる場所など、働くのに便利な場所であるべき。
- ・ 雪を利用した設備、耐雪がベスト。
- ・ 既存との関係を考える。

日時 : 2012年10月11日 木曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子 (記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

□ M2 修士テーマ発表

□ 修士テーマ発表

■ 細金 / 同時存在空間

> 閉じているようで開いているようなのが同時存在なのか。1つの空間で境界が2つ存在しているのが同時存在なのか。何故違うのかを突き詰める事が大切である。図面でなくダイアグラムに戻して考える事で見えてくるので、簡単に書く。単純化しないで考えても何が重要かはわからない。

■ 加藤 /

> セミパブリックとセミプライベートを分けるには基準が必要。それがない限り線引きはできない。二項道路で分けるなど路地でも人が入れないなどの画を書く。ルールを決める。

日時 : 2012年10月8日 月曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子 (記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

- M2 修士テーマ発表
 - M1 院ゼミ旅行
-

修士テーマ発表

■加藤 /

> 公私を形作る様々な因子を定量化すること。下町らしい人間関係は建築、木密がどのようになっているとできるのか。木密がどのような構成になっていたら人間関係が生まれるのかを見つける。人間関係を保持したまま都市修繕を行う。それは開口が関係しているのか。

■細金 / 同時存在空間

> 何と何が同時存在しているのか。何が魅力なのか。ダイアグラムの空間を原型に戻し、同じ空間でも人によって感じ方が違う、2つの認識が重なっていることを目指す。まずはしぼる事が大切である。やっている事を整理する。

■田口 / 隙のある建築

> 建築における隙があるとは何か。自分も納得するようなデータを取り、これまでの考え、思考をトレースする。意識的に建築をつくっている人をレファレンスにする。

院ゼミ旅行

- ・ 明日までに資料、しおりを準備する。
- ・ ホテル、旅行会社、ルートを決める。車と日本語ガイドを探す。

日時 : 2012年10月4日 月曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

- M2 修士テーマ発表
 - M1 院ゼミ旅行
-

修士テーマ発表

■細金 / 同時存在空間

> 内外がわからない模型は意味があるのか。やりたい事を並び替えしっかりと整理すること。また、しっかりとした模型でなければわからない。それをダイアグラムにする事。

■田口 / 隙のある建築

> 隙がないとおもしろさもない。隙とはムダなものを作る事。完全なムダではなく使おうとすれば使えるもの。ふとしたときに気づき魅力が生まれるもの。隙の本質を隠し、コントロールすること、ムダを認めてもらうためにはどうすればいいのかを考える。ムダのバランスを考える。

■加藤 /

> 私道公道を示さなければならない。まずは、パブリック/プライベート/セミパブリック/セミプライベートの色分けをする事。木密の平面図を書いてみる。正確な模型、図面を書き寸法などデータをとる。また、地と図の関係や棟数密度などぐちゃぐちゃ感の関係などを示す。

総評

- ・ 来週までに方向性、ネタがあいと間に合わない。ゴールイメージを作る仕組みを考え、これまでの思考をまとめる。
- ・ 建築家はムダを作る事であり、ムダを作る技術を学ばなければならない。

日時 : 2012年9月27日 月曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子 (記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

□M2 修士テーマ発表

□修士テーマ発表

■加藤 /

- > 模型を作って木密の良さが分かるようにする。なぜ路地などに入りやすいのか入りにくいのか。それをどうやって人に伝える事ができるのかを考えなければならない。現状では着目点がなく、模型から見つけなければならない。

■細金 / 同時存在空間

- > 境界をいかに曖昧にしていくかを考える。仮想境界と同時存在はどう関係しているのか、同じなのか。河内さんのとは今までのどかが興味と違うのか。内部のみを外部に開くなど。シバウラハウスなどを参考にする。

■田口 / 隙のある建築

- > 隙と隙間の違いはなにか。シモンズホールの断面的な操作やシザのエントランスなどを参考にす。隙はなくてもいいものだが魅力を増している。目に見えないものや事を考える。

□院ゼミ旅行

- > 集落の見学は1時間くらいで十分。見学する村はショーなどが無い村を選ぶ。10/31~11/5 か 11/1~11/6 のどちらにするのか。飛行機がどちらでとれるかを確認する。HIS で仮抑えをし、中国国際航空に電話予約をする事。

日時 : 2012年9月20日 月曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子 (記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

M2 修士テーマ発表

修士テーマ発表

■加藤 /

- ・木密は再建不可能。木密の根源的な問題は財政、地権、高齢化など借家人に有利な状況ができてしまっている。
- > 木密の魅力とは何か。高密度、不燃化をすれば良いのか。構造を補強する事と木密を保存することの関係は何か。防災・システム面は難しいのでは？木密をなぜ立て替えなければならないのか。どうしたら木密となるのかを考える。

■田口 / 隙のある建築

- > 均質な光・空間は隙がないのでは。隙がない建築を探す。隙がないという事はミスがないことが本質であり、ミスを容認する事ができる、どっかしらが崩れていることではないのか。隙じゃない中に隙を入れる事が魅力を増す事に繋がる。どのようにしたら隙を作り出す事ができるのかを考える。隙を作る事に何が重要で必要なのか、どんな建築を作りたいのかを考える。

■細金 / 同時存在空間

- > 時間、余剰、序列、何に興味があるのか。内外の連続のさせ方を考えなければならない。

総評

- > レファレンスを探してダイアグラムを書く。レファレンスを知る事で評価軸を得る。また、知識があって初めて議論になる。

日時 : 2012年8月23日 月曜日 20:00~22:00
場所 : 山田記念室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子 (記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

□M2 修士テーマ発表

□修士テーマ発表

■田口 / 隙のある建築

- ・隙をキュビズムから多視点、立体を平面化・動作の合成と分析する。また、6:3:1 の1の割合を隙と考え、分散させる事が重要であると考え。
- > 隙があるという事は、見える見えない事が重要であるのか。遊びやムダがある事が魅力を生む。その遊びやムダなものをムダと思わせない事を目指す。

■細金 / 同時存在空間・見立て

- ・見立てとはあるものを別のものととらえる事である。
- > まず何がダメなのかを考える。修士の目的とは何か。見立てる事で何が良くなるのか。表裏は主体の問題である。表裏を作り出してる要因は何なのか。

□院ゼミ旅行

- ・スリランカ：ジェフリーパワの建築群。
カンボジア：アンコールワット、円形集落
- > スリランカ、カンボジア共に観光的。まずは論文などを探す。貴州、スリランカ、カンボジア。

日時 : 2012年7月23日 月曜日 19:00~21:00
場所 : 建築第4研究室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

- インド DR
 - M2 修士テーマ発表
-

インド DR

- ・ Web には googlemap などではなく pdf を貼付けておく。
- ・ 地図にポイントを打つだけでは分からないので、その場所が分かるように説明や周辺を一緒に載せる。

修士テーマ発表

■細金 / 「表と裏」

- ・ 卒制は全体をまとめる秩序がなかった。空間を同時に感じるかどうかは設えの問題でしかなく、機能が合わさっているだけ。小嶋さんの白と黒は使われ方によって用途が変わる白と似ているのではないか。
- > 卒制は表裏を人によって感じ方が変わる事がおもしろかった。今のままではただ単に空間がニュートラルなものになっているだけではないのか。黒になったり白になったりするものを作る。自分の言葉をみつける。

■加藤 / 「隣棟間」

- ・ 卒制では木密っぽさを残そうとした。修士では木密の良さを残す。木密っぽさの中に木密の良さがあるのではないか。
- > 木密の良さは人付き合いではないのか。グループホームのような提案にプログラムや必要性を知る事が必要。木密っぽさを明快にすること。レファレンスも1つでは意味がない。

■田口 / 「差し色/外し/崩し」

- ・ 隙は外し、崩しではないか。差し色は要素を足す、外しは引き+足し、崩しは引き。立体感を出すためのシークエンスカラー、差し色。
- > 絵画については勉強した方がいい。自分の興味がどこにあるのかを整理する。原型が分かる範囲で崩すことが重要。見た目だけの隙ではなく1つ1つ要素が分かる物を作る。

日時 : 2012年7月09日 月曜日 19:00~21:00
場所 : 建築第4研究室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

□ M2 修士テーマ発表

□ 修士テーマ発表

■ 細金 / 「いくつもの手がかりによる多重認識」

- ・ 卒制は空間を2つの認識が得られる。表裏は位相幾何学とは違う。知覚心理学のハイブリット画像は1つの事象で2つの認識を作り出す事が出来る。
- > 今までの多重認識となりが違うのか。ハイブリット画像と広尾サーベイは同じなのか。広尾は1つの体験ではなかったのではないか。表裏は主体の問題なので主体が何かを考える。卒制で何が出来ていて、何が出来ていなかったのかをまずは知る事。

■ 加藤 / 「木密の隙間」

- ・ 隙間の入れる/入れない、見える/見えないは自分の考える隙間に関係はしていない。密度(本数)は意味があるのではないか。隙間の分類をし、歩け通り抜ける隙間は木密を感じる。隙間の数え方として見える、見えない、隙間の中の隙間がある。
- > 論理的ではない。この分類・数え方では全ての隙間を数える事になる。イメージだけでは統計しかとれないので、数え方が誰がやっても変わらないものでなければならない。そこから基準が出る出ないが分かる。

■ 田口 / 「建築におけるベース色・補色・差し色とは何か」

- ・ 差し色とは建築では開口が関係しているのではないか。アイレベルから開口がズれることで連続している空間ではリズムが生まれる。補色は6:3:1の割合とは関係してはいのでは。
- > 建築は普通スキをつくらないから良かった。差し色は完璧な物をつくり出そうとするので違うのではないか。興味は変わらないものなので四年の時の興味に素直に戻って考え、急にゴールを出そうとしない。

日時 : 2012年6月18日 月曜日 20:00~21:30
場所 : 建築第4研究室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

□ 学会コンペエスキス

□ 学会コンペエスキス

■ 田口/細金/(狩野)チーム / 北品川

- ・ 旧東海道と裏町の層があったけど現在は境界が曖昧になってしまっている。
- > 北品川宿と歩行新宿は同じか。北品川から歩行新宿が生まれたのでは。路地と横町の関係を示す。Plan がどこをいじっているのか分からないので表と裏の構造を示す。提案は路地・横町の層を明確にする事。作る物が邪魔にならずに建築として使えるもの。

■ 加藤/金子/増井チーム / 新宿百人町

- > 日本初の建築協定が現在どのように残っているのかを示す。敷地が周辺から取り残されている事は抜けの状態を分かりやすく表現する。人を呼び込むためにはどうすればいいかを考える。ゾーン分けで学生や住民へのプログラムを考える。空地全てに同じ物を入れなくても良いので、どこを繋げたら南側空地が通るのかを考える。

日時 : 2012年6月11日 月曜日 19:00~21:00
場所 : 建築第4研究室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

- M2 修士テーマ発表
 - 学会コンペエスキス
-

修士テーマ発表

■田口 / 「隙—誘目性—穩微対立型」

- ・ 誘目性は色が人の目を引きつけること。絵画など色のバランスが 6:3:1 となっている。差し色は穩対立型、補色は微対立型である。
- > 勉強したものを建築に置き換えることが大事。~対立型は差し色とは関係がないのでは? 6:3:1 の時にどのような状態になっていけば良いのかを考える。バランス、構図を知った方が良い。ゴールは何か。

■加藤 / 「隙間の質、評価軸探し、方向性」

- ・ 隙間、歩行空間、木密の3つに分け、木密らしさとは何かをデザイン的に評価する。隙間から都市を記述する。既存論文では隙間は通れないことになっている。木密とは歩行可能な隙間が自由に繋がっていること。木密の良さを取り入れたまちづくりの設計。木密と一目で分かるような画をつくる。
- > 通れるかどうかは曖昧な基準。論文にするには難しい。隙間はどうかかるのか? 密度のほかに何かがあるのか。質があるかないか何故わかるのか? ゴールが分からない。隙間を調べる。線分を数えれば何か密度がでるはず。論文を探す。

学会コンペエスキス

- > 百人町は初の建築協定の街をおす。住民は空地の利用方法が分かっていない、建築協定が分かるような物を入れる。サステイナブルな機能じゃないものや記し。タイトルも重要。
- > 北品川は路地ではない。「徒歩(かち)」の概念を調べる。かつての宿のシステムを再構築するというような仮説をたてる。そのエリアだけなぜ人の往来が多かったのか?

日時 : 2012年6月4日 月曜日 19:00~21:00
場所 : 建築第4研究室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

- インド DR
 - M2 修士テーマ発表
 - 学会コンペエスキス
-

インド DR

- ・ 周辺が入っていると良い。周辺の建物などが結構重要なのでは？
- ・ 臨場感のある画がどのようなものなのかを考える。
- ・ 動画・データを集め、web にあげる。

修士テーマ発表

■細金 /

- ・ 「森のすみか nest」のモデルを作成。レベル差による行為の混在、開口による外部の強調、内部でも外部にいるような体験をする。
- > パッセージと同じなのは？半地下になっていることは内外部に関して関係していないのでは。建築はエントランスが目立ってしまうので、エントランスを消そうとしている。場所性を失う事が何の役に立つのかを考える。レファレンスを多数探し比較対象できるようにする。モデルを作る事は悪くないが、内外が曖昧な物をつくっても意味がない。

学会コンペエスキス

- > 南側に空地を設ける事、北側に最大限建物を寄せることがおもしろい。なぜ南側空地をとらなければいけないのかを考える。建築協定の痕跡が残っている事が住民には知られていない。空地に建築協定が分かるような何かを入れる、空地/道路の利用法などを考える。立面では難しいので平面でサーベイを進めると良い。

日時 : 2012年5月21日 月曜日 20:00~22:00
場所 : 建築第4研究室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

□M2 修士テーマ発表

□修士テーマ発表

■田口 / 物理的な隙×心理的な隙における空間認識の研究

- ・ スパイス/少量でありながら全体を締めるような要素。隙と隙間の違いについて。差し色/挿絵などスパイスなるような要素を抽出し設計手法とする。
- > 隙とは何か。隙があるから魅力があるのでは。隙がある/ないの割合が大事になる。元のもの引き立つような役割。差し色はテーマとしてはいい。差し色の本質が色とかではないことを理解する。

■加藤 / 木密に今/もしくはこれから 住む人のための設計とはなにか。

- ・ 残すべき木密らしさとは何か。何を大事に暮らしているのか。隙間の質/振る舞い。隙間の質が木密らしさに繋がっているのではないか。
- > 論文だと数える事が出来る評価軸などが必要。「質」などは評価軸にはならない。人の土地を踏む事でコミュニティが生まれる。曖昧な領域を作る事でコミュニケーションが生まれる。木密を調べる。論文がたくさんあるはず。

■細金 / 二律背反的空間/多様性のある空間

- ・ 「森のすみか nest」 潜る行為が空間を複雑に認識させている。色々な用途が内包されたディスプレイプログラミングのような状態。
- > 全く違う事をぶつける事で新しいものが生まれるという考え。元々ある事を揺れ動かすにはどうすればいいのかを考える。難しい言葉は使わなくてよい。ネタがあるなら実際に模型を作ってみればよい。ディスプレイプログラミングはプログラムのことであり、空間ではない。

□総評

- ・ まずは論文など勉強をすること。
- ・ 論文は数えられるなど評価軸が必要となる。
- ・ 自分の興味はどこにあるのか。ゴールイメージを持つ事。
- ・ 院生としての答えを出す。卒業の時に何がしたかったのかをはっきりすることが大切。
- ・ 難しい言葉を使わない。簡単な言葉で説明する。
- ・ 何が問題なのか?それが分かればゴールが見える。何が目的なのか。

日時 : 2012年5月14日 月曜日 19:00~22:00
場所 : 建築第4研究室
出席 : M2 加藤 田口 細金
 : M1 金子(記) (研究生 増井)
欠席 : なし

ゼミ内容

□M2,M1 学会コンペエスキス

□学会コンペエスキス

■田口/細金/(狩野)チーム / 北品川

- ・品川宿はかつて横町が存在し、現在でも「名前のある横町」がいくつも残されている。失われた横町、横軸を復活させ、商店街の縦軸との関係性を復元し、機能を入れることで、現代の宿場町として昔の記憶と人の繋がりを再構築する。
- > かつてあった街の構造・ルール、失われたものは何かを考える。海への道があるはずだが見えていない。道がどうなっているのか。見えなくなってしまったものを形にする提案する。

■加藤/金子/増井チーム / 逗子・国道駅・新宿百人町

- ・顕在化してしまったまちの意識の低下がポケットパークであると考え、畦道によりまちのかけがいのないコミュニティが復活していく過程がポケットパークや空き地の消滅である。畦道はまちの風景を継続する暮らしのインフラとなる。
- > 逗子は交通や地形など変える事が難しい。来ない人が知らない逗子を見つける。他湘南地域との違いは何か？海沿いは難しい。3つの中では百人町が面白い。減築したのは誰か。街区・建築協定がどのように残っていて、守っているのは何か。

□総評

- ・自分の発見を見つける事が大切。
- ・見えなくなっているものを見せる。それは何故見せたいのかが問題意識となる。
- ・何が誰にとってあたりまえのまち、かけがえのないものなのかを考える。
- ・新しい価値をあたえ、何をあたりまえとするのか。これからも変わらない風景とか。